

ミュージアム石川 のと かなざわ かが

美川仏壇の技輝く

きょう落慶法要

小松市軽海町のお年寄りてつくる栄寿会は六日までに、美川仏壇の技法の粋を集めた仏像をまつる宮殿と台座の須弥壇を同町公民館に設けた。県内の公民館で寺院に納めるのと同じ美川仏壇の仕様が用いられたのは初めて。六十五歳以上の会員が全国に誇る美川仏壇の匠の技にこだわった祭壇は本漆塗りの艶や金色の輝きを放っており、七日に住民約百五十人が出席して落慶法要が営まれる。

寺院と同じ仕様 公民館に設置

■小松・軽海町の栄寿会

唐草などの金箔を張った橋の欄干を模した。材木彫刻を施し、須弥壇ははくサマキとイチヨウ



美川仏壇の技を結集して作られた宮殿と須弥壇
＝小松市軽海町公民館

宮殿と須弥壇、県内初

を用い、くきを一切使わず、用いられた約八百の金具はすべて手打ちした。軽海町公民館では約四十年前から中古の仏壇が握えられており、毎月十日に「十日御講」が続いているほか、住民の葬儀

の場としても活用されてきた。しかし、数年前から仏壇の傷みが目立つようになったため、六十五歳以上の住民百四十五人で組織する栄寿会が新調（白山市などに宮殿や須弥壇を納めており、軽海町公民館も同じ仕様で仕上げた。会員らは宮殿や須弥壇を感慨深く見つめ、多保田寛栄寿会長（白山市の四代目、北島昭浩さん）に製作を依頼する場として未永く大切に話し、美川佛壇協同組合の職人ら二十五人が五月

薪くべ試し炊き
能美・21日のまつりへ
能美市の市民グループ「能美の里山ファン倶楽部」と同市仏大寺町の住民は六日、同町公民館で集落の民家に残っていた釜とかまどを半世紀ぶりに活用し、薪をくべる昔ながらの方法で地元産のコシヒカリを試し炊き上げた。参加者二十一人は、二十日の「釜炊会」でろうそくを並べる休耕田の田舎らしさに取り組み、水を張って準備を進めた。